

第45巻 第4号 予告

特集「環境に起因する健康リスク」

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| 1. 環境リスクの健康影響評価
——特に有害化学物質について—— | 内山巖雄 |
| 2. 環境リスクのマネジメント | 池田三郎 |
| 3. 電磁場による健康リスク | 大久保千代次 |
| 4. 廃棄物処理による健康リスク | 田中 勝 |
| 5. 屋内汚染と健康 | 池田耕一 |

編集後記

今年度から、編集委員として編集会議に臨んでいる。

今回の特集は「医師の卒後公衆衛生教育」であるが、この特集で思い出したことがある。私は、東京都勤務時代に離島の保健所に勤務した経験をもつ。その職員構成は、医師1、獣医師1、事務1、栄養士1、検査技師1、放射線技師1、保健婦1(私)で黒澤映画の「7人の侍」と各々が自負してさっそうと仕事をしていた。中でも医師は、乳幼児にツベルクリンを注射し、健康教育も行い、職員管理も、医療監視もし、行政判断もくささなくてはならないオールマイティの「神様」であることが期待されていた。

「保健所長は、医師であるべきか否か」が議論される今日である。昨年の阪神大震災、今夏の病原性大腸菌 O157の襲撃等と、すぐれた公衆衛生的判断が要求される事象が起こる中でたいへんタイムリーな特集になったと思う。「公衆衛生マインド」が醸成される教育とは？と考えつつ、是非、ご意見・ご感想をいただきたい。

齊藤泰子 (公衆衛生看護学部)